

『 笑顔あふれるピア・サポート活動 』

藤枝市立高洲南小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修	
4月	<p>【生徒指導の五本の柱が機能する】</p> <p>五本の柱「自己決定」「相手とのかわり」「存在感」「発達の可能性」「人間的ふれあい」</p> <p>日々の授業の中で、聴く心を育む。主体的に聴く心、友達のおもいに寄り添って聴く心を育てる。</p>	1年生を迎える会	「出会い」(温かな人間関係) 「聴く心」(相手が話したくなる温かな聴き方)	ピア・サポート活動の年間計画(高南プラン)を配布し、職員の共通理解を図る。
5月		わくわく班づくり集会	「アセス」の実施	「職員会議」 (「ピア・サポートリーフレット」「こどもが安心して学べる学校づくりに向けて」を使っての研修会)
6月		わくわくあそび ・6月10日 ・6月24日	「自己表現」(自分も相手も大切にする自己表現)	「学年研修」 授業におけるこどもの具体を価値づける。
7月		・7月8日		
8月				
9月		運動会		「随時」学年会などでこどもの情報交換をし、本人に知らせる。
10月		わくわくあそび ・9月9日	「聴く心」(相手が話したくなる温かな聴き方)	「学年研修」 授業におけるこどもの具体を価値づける。
11月		・10月7日 ・11月11日 ・12月2日		「研究発表会」 授業におけるこどもの具体を価値づける。
12月				
1月		わくわくあそび ・1月20日 ・1月27日	「アセス」の実施	人権教育の手引きを活用した短時間ワークの研修
2月		・2月3日		6年生ありがとうの会 児童会・委員会引き継ぎ式
3月				

1 本校のピア・サポート

本校では、学校の核となる「授業」で人を育てるということを職員が共通理解している。生徒指導の5本の柱「自己決定」「人間的ふれあい」「相手とのかかわり」「存在感」「発達の可能性」が「ピア・サポート」の信念に通じるものと確信し、ピア・サポートという言葉がこどもの具体の姿となって表れるような手立てを講じてきた。特に、授業とわくわく班活動を軸としてピア・サポート活動を行っている。

2 本年度の取組

(1) 授業において〈提言5〉

① 授業像づくり

新しいクラスになると、新しい仲間とどのような授業をしたいか話し合う。自分の授業に対する思いを語ったり、友達の思いをじっくり聴いたりすることを通して、クラスみんなでかかわり合いながら学んでいこうという意識が高まっていく。授業像づくりの話し合いは、相手の考えを尊重し、あたたかく聴く雰囲気をつくる大切な時間にもなっている。こどもたちの思いと担任の思いを重ね合わせた『授業像』は学級全体の授業の礎となり、仲間同士で支え合っていく考え方の土台となっていく。

② 聴く心

本校では、『聴く心 思考する間 動き出す姿』の3つを重点として研修を行っている。その中でも、生徒指導の5本の柱を根底に、相手意識をもって聴くことが学校全体の温かな雰囲気につながると考え、『聴く心』を育てることを特に大切にしている。日々の授業の中で、相手意識をもった聴き方を価値づけて広めていくことや、どのような聴き方が「温かく聴く」なのかこどもたちと共に考えていくことが、ピア・サポートにつながると考え、『聴く心』を育ててきた。その結果、友達の考えを本気でわかろうとして聴く子や、自分の考えと比べてさらに深く考え、聴いた後に自分の言葉に言い換えて伝えたりする姿が見られるようになってきている。

(2) 特徴的な活動

① わくわく班活動〈提言1・6〉

本校では、仲間意識や集団への所属感、こども同士のかかわりを広げていく期待感を高めるために、こどもたち自身で1～6年生の班をつくっている。班をつくるにあたり、どのような班をつくったらよいのかこどもたちが考えると、「まだあまり話したことの無い友達と組もう。」「低学年の子をサポートできるようなペアにしよう。」という声があがる。班づくりが新しい出会いのため、男女関係なく他学年の友達とも仲良く過ごすためであることを、多くの児童が理解して班づくりをしていた。

わくわく班遊びは、同じ班の1～6年生みんなが楽しめるような遊びを6年生が計画し、実行している。ドッジボールをして遊んでいる班では、なかなかボールがとれない低学年の子にボールを渡して優先的に投げさせてあげる姿が見られた。遊びの内容を目的に応じて考えたり、わくわく遊びを企画したりすることで、6年生の自立とリーダー性が磨かれ、どの学年の子も楽しんで活動する姿が見られた。そして、このような6年生の姿を見ている下級生たちは「ぼくたちもあんな6年生になりたい。」と憧れが連鎖していく。

3 本年度の成果と来年度に向けて

校訓「自立 愛」は学校生活の様々な場面に浸透しており、高学年が低学年の憧れの存在となり、下の学年に引き継がれている。また、縦のつながりだけではなく、学年間でも相手意識をもった行動をする中で、友達の姿からも学び、成長している。その姿は、他者を思いやり、かかわりを大事にしていく「ピア・サポート」の理念と一致する。職員が入れ替わる中でも、その伝統を引き継いでいきたいと考えている。また、来年度は「アセス」の結果を参考に、こどもたち一人一人への支援を充実させるとともに、こども同士で仲間を大切に、支え合う姿を積極的に価値づけ、広めていきたい。

